

令和5年度【保健体育・体育】シラバス

※コロナウイルス感染症への対策を十分にとって授業を行います。

科目名	対象学年	単位数	教科担当者氏名 印		
体育	1 学年	2	當間 徹也 伊良部 悠	宮平 永義 金城 裕貴	平良 夏紀
体育	2 学年	2	當間 徹也 伊良部 悠	宮平 永義 金城 裕貴	平良 夏紀
体育	3 学年	3	當間 徹也 伊良部 悠	宮平 永義 金城 裕貴	平良 夏紀

1 【体育】の目標

1. 運動・スポーツの楽しさを味わい、自ら生涯にわたり運動・スポーツを実践する能力と態度を育てる。
2. 選択制授業を通じて、仲間と豊かに関わり合い、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して運動できる能力と態度を育てる。
3. 集団での行動様式を身につけ、集団の約束やきまりを守り安全に留意して行動できる力を育てる。

2 【体育】の単位数について

学 年	体 育
1 年	2単位
2 年	2単位
3 年	3単位
計	7単位

3 【体育】の概要

- (1) 体づくり運動・体ほぐしの運動、体力を高める運動、新体力テスト
- (2) 陸上競技・・・持久力走
- (3) 水泳・・・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ → 感染状況を見て実施
- (4) 球技・・・バレーボール、バドミントン、サッカー、バスケットボール、卓球、ソフトボール、
- (5) ダンス・・・創作ダンス、リズムダンス等
- (6) 体育理論・・・社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方

4 【体育】の到達目標

- (1) 生徒一人一人に、運動の楽しさや喜びをより深く味わわせる。
- (2) 自己の能力・適性・興味・関心等に応じた運動の行い方や楽しみ方を主体的に工夫する力を育てる。
- (3) 健康・安全に留意し、健康の増進と体力の向上を図り、計画的に運動する習慣を育てる。
- (4) 個人及び集団の生活における健康・安全についての認識を深めさせる。
- (5) 全員が泳げるようにする。

5 評価の観点

- (1) 運動への関心・意欲・態度
 - ・学習を通して公正、協力、責任などの態度を身につけ、健康・安全に留意し、最善を尽くして運動をしているか、また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを会得しようとしてつとめているか。
- (2) 運動についての思考・判断
 - ・運動の特性に応じた自己やグループの問題解決を目指して、活動の内容や方法を考えたり、楽しみ方を工夫しているか。
- (3) 運動の技能
 - ・特性に応じた技能を身につけているか。
- (4) 運動についての知識・理解
 - ・運動の合理的な実践に関する基本的な事項、生活における運動の意義などについて、どれだけ理解し知識を身につけているか。

6 成績評価の方法

観 点	方 法
関心・意欲	自己評価・相互評価・教師の観察
態度（マナー）	授業への参加姿勢（出席・服装など）
思考・判断	個人カード・グループノート・教師の観察
技能	記録・ゲームの記録
知識・理解	ペーパーテスト・教師の観察

評価の観点		
(1) 知識・技能 (A・B・C)	(2) 思考・判断・表現 (A・B・C)	(3) 学びに向かう力, 人間性 (A・B・C)
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他社に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

7 使用教材

- (1) 教科書名（会社名）：現代保健体育（大修館書店）
- (2) 副教材：アクティブスポーツ（大修館書店）
- (3) 指定（推薦）辞典：なし

8 年間指導計画及び授業進度予定表

◎ 1 学年

学 期	月	単元	指導内容・ 指導項目等	時 数	重点（指導）	目標評価の観点	備考
1 学 期	4	体づくり 運動	新体力テスト	7	・測定結果をもとに、それぞれの体力に合ったコース選択制を行う指標とするとともに、積極的に授業参加する姿勢を体得できるようにする。	・積極的に体力テストを受けることによって、現時点での体力数値を知り、これを励みに仲間と楽しく交流を図りながら、自己の体力に合った運動を工夫することができる。	体力測定 器具
		体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
	5	水泳 球技選択	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ	12	・自己の能力に応じて技能を高め、速く、また長く泳ぐことができるようにする。互いに協力して練習するとともに、安全に練習ができるようにする。	・水中でのルールやマナーを守りながら、積極的に泳法を学びとろうとすることができる。	・前半 (水泳) ・後半 (球技) を2クラス展開して行う
	7		バスケットボール	12	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
	2 学 期	9 ・ 10	体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・現代生活におけるスポーツの重要性を知り、様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。
ダンス			創作ダンス	12	・自己の能力に応じて技能を高めることができる。また、安全に練習ができるようにする。	・基本的な技能を身につけ、積極的に練習し、武道に対する伝統的な考え方や礼儀についても学習することができる。	体育祭に 向けた取 組をする

	1 1	球技選択	バレーボール バドミントン、 上記より選択	12	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
		体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
	1 2	陸上競技	競走（長距離） 投擲（砲丸投げ） 跳躍（幅跳び）	7	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度が取れるようにする。	・速く走るために、どのようなフォームが効率的であるか、また、どのようなトレーニングが有効であるのかなど、積極的に取り組むことができる。	
3 学 期	1	球技選択	サッカー、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、上記より選択	14	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
	2						
	3						

◎ 2 学年

学 期	月	単元	指導内容・ 指導項目等	時 数	重点（指導）	目標評価の観点	備考
1 学 期	4	体づくり 運動	新体力テスト	7	・測定結果をもとに、それぞれの体力に合ったコース選択制を行う指標とするとともに、積極的に授業参加する姿勢を体得できるようにする。	・積極的に体力テストを受けることによって、現時点での体力数値を知り、これを励みに仲間と楽しく交流を図りながら、自己の体力に合った運動を工夫することができる。	体力測定器具
		体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
	5 6	水泳 球技選択	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ	12	・自己の能力に応じて技能を高め、速く、また長く泳ぐことができるようにする。互いに協力して練習するとともに、安全に練習ができるようにする。	・水中でのルールやマナーを守りながら、積極的に泳法を学びとろうとすることができる。	・前半 （水泳） ・後半 （球技）を 2クラス展開して行う

	7		バレーボール	12	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
2 学 期	9 ・ 10	体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・現代生活におけるスポーツの重要性を知り、様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
		ダンス	創作ダンス	12	・自己の能力に応じて技能を高めることができる。また、安全に練習ができるようにする。	・基本的な技能を身につけ、積極的に練習し、武道に対する伝統的な考え方や礼儀についても学習することができる。	体育祭に向けた取組をする
	11	球技選択	サッカー バスケットボール・卓球 上記より選択	12	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
		体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
	12	陸上競技	競走（長距離） 投擲（砲丸投げ） 跳躍（幅跳び）	7	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度が取れるようにする。	・速く走るために、どのようなフォームが効率的であるか、また、どのようなトレーニングが有効であるのかなど、積極的に取り組むことができる。	
3 学 期	1	球技選択	サッカー・バスケットボール・卓球 上記より選択	14	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
	2						
	3						

◎ 3 学年

学 期	月	単元	指導内容・ 指導項目等	時 数	重点（指導）	目標評価の観点	備考
1 学 期	4	体づくり 運動	新体力テスト	7	・測定結果をもとに、それぞれの体力に合ったコース選択制を行う指標とするとともに、積極的に授業参加する姿勢を体得できるようにする。	・積極的に体力テストを受けることによって、現時点での体力数値を知り、これを励みに仲間と楽しく交流を図りながら、自己の体力に合った運動を工夫することができる。	体力測定 器具
		体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
	5 6	水泳 球技選択	クロール 平泳ぎ 背泳ぎ バタフライ	12	・自己の能力に応じて技能を高め、速く、また長く泳ぐことができるようにする。互いに協力して練習するとともに、安全に練習ができるようにする。	・水中でのルールやマナーを守りながら、積極的に泳法を学びとろうとすることができる。	・前半 (水泳) ・後半 (球技) を2クラス展開して行う
2 学 期	9 ・ 10	体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・現代生活におけるスポーツの重要性を知り、様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
		ダンス	創作ダンス	12	・自己の能力に応じて技能を高めることができる。また、安全に練習ができるようにする。	・基本的な技能を身につけ、積極的に練習し、武道に対する伝統的な考え方や礼儀についても学習することができる。	体育祭に向けた取組をする

	1 1	球技選択	バスケットボール、バドミントン、サッカー、ソフトボール 上記より選択	12	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
		体育理論	現代生活とスポーツ	2	・変化する現代生活におけるスポーツの意義や必要性についての理解を深める。	・様々なスポーツ情報を積極的に収集できる。	
	1 2	陸上競技	競走（長距離） 投擲（砲丸投げ） 跳躍（幅跳び）	7	・自己の能力に応じて技能を高め、競技したり、記録を高めたりできるようにする。互いに協力するとともに、公正な態度が取れるようにする。	・速く走るために、どのようなフォームが効率的であるか、また、どのようなトレーニングが有効であるのかなど、積極的に取り組むことができる。	
3 学 期	1	球技選択	サッカー、ソフトボール、バレーボール、バドミントン、上記より選択	14	・自己の能力に応じた技能の向上によって、攻防の展開ができるようにする。また、安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。	・各選択種目の基本を着実に身につけ、多彩なプレーを組み立てられるようにする。ルールや特性を理解し、仲間と楽しく試合をすることができる。	
	2						
	3						

令和5年度【保健体育・保健】シラバス

1 「保健」の目標

保健	1学年	1単位	伊良部 悠 金城 裕貴
保健	2学年	1単位	當眞 徹也 平良 夏紀 宮平 永義

1. 健康の保持増進のためには自分自身の生活行動を選び実践することや、そのための必要な環境を改善する努力が大切なことを理解する。
2. 我が国の保健医療制度について理解し、生涯を通じた健康課題に対応できる能力を身につける。
3. 健康と環境や食品、労働についての関わりを理解し適切な判断力や対応能力を身につける。

2 「保健」の単位数について

学年	体育
1年	1
2年	1
3年	
計	2

「保健」は各学年とも必修です
数字は1週間に行う授業時数(単位)です。
1年間に35時間の授業を行います。

3 授業の進め方や学び方について

- ・保健は2年間を通じて学びます。また、体育との関連も重要です。
- ・1年(健康に対する考え方の確立→個人の健康)→2年(集団の健康→社会環境を含めた健康)へと内容が広がります。年間指導計画を見て2年間の見通しをもって下さい。
- ・保健の授業を通して、健康についての基礎的な知識のもとに意欲を持って「健康的な生活を実践する力」を身につけてください。学習内容と日常の生活行動を関連付け課題の解決を図りましょう。
- ・テレビや新聞などから健康問題に関する情報があふれています。皆さんが間違った認識を持っていることも珍しくありません。情報を鵜呑みにすることなく、科学的に学習することにより、正しい知識を身につけてください。

授業を受けるにあたって守ってほしいこと

- ・教科書、保健ノートを必ず用意し、配布される資料やプリントはしっかりとファイルして下さい。
- ・提出物は評価の対象となりますので、確実に提出して下さい。
- ・ノートをとる際には、板書事項をただ書き写すのではなく、他の人や先生の発言の中から気付いたこと、授業を通して感じたこと、考えたことを記入するなど、学び方を工夫して下さい。
- ・授業をチャイムと同時に始めますので、教科書及びノートを準備してチャイムと同時に着席を完了して下さい。

5 評価について

評価の観点		
(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あふれる生活を営む態度を養う。

学習計画

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
1	4	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・死因別にみた、わが国の死亡率や患者の病気の傾向について理解できる。 ・新しい病気の傾向について、具体的な事例を踏まえて理解できる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
		1. 国民の健康水準の向上と変化する健康課題 (教 p.6~7) 2. 健康の保持増進とヘルスプロモーション (教 p.8~9)	<ul style="list-style-type: none"> (1)日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。 (2)日常生活において、自らの健康を考えて、病気を予防しようと努めることができる。 (3)身の回りや日常生活における病気の傾向、わが国の健康水準について調べることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ヘルスプロモーション」の定義について理解することができる。 ・健康を保持・増進するための環境について理解することができる。 (1)健康の増進のために、積極的な健康づくりである「ヘルスプロモーション」が重要になってきていることを知り、そのためのわが国や世界各国での取り組みについての理解を深める。 (2)健康増進の取り組みについて、自らの生活に当てはめて考え、積極的に健康増進を図ろうとすることができる。 (3)ヘルスプロモーションとはどのような概念なのかについて理解し、健康を保持・増進するのに必要な環境について調べることができる。 				
	5	第2節 現代の感染症とその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。 				
		1. 感染症の予防 (教 p.10~11)	<ul style="list-style-type: none"> (1)感染症が発症する仕組みや、感染症の種類を知り、感染症の予防には適切な対策が必要であることについての理解を深める。 (2)感染症の現状を知り、予防するための方策について考えるとともに、人権への配慮ができる。 (3)感染症の成立の仕組みを理解し、日常生活のなかでの感染症予防に役立てることができる。 				
		2. 性感染症とその予防 (教 p.14~15)	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症の予防について正しく理解することができる。 ・H I V感染症・エイズの治療法を正しく理解することができる。 (1)性感染症について正しい知識をもち、感染経路やその予防法についても理解を深める。 				

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
			<p>(2)性感染症を予防するための方策について考えるとともに、人権への配慮ができる。</p> <p>(3)性感染症とその予防や治療についての情報を、教科書などから積極的に調べることができる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
6		<p>第3節</p> <p>生活習慣病などの予防と回復</p> <p>1. 生活習慣病の予防 (教 p.16~17)</p> <p>2. 食事と健康 (教 p.18~19)</p>	<p>・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。</p> <p>(1)現代の死因の大部分を占める生活習慣病について、原因とその予防に対する対策についての理解を深める。</p> <p>(2)自らの生活習慣をかえりみて、生活習慣病予防のための適切な行動を選択することができる。</p> <p>(3)生活習慣病の要因についての情報を集め、自らの生活習慣の改善に役立てることができる。</p> <p>・健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解をもつことができる。</p> <p>(1)健康を保持・増進するとともに、生活習慣病を予防するために、基本的な生活習慣である「食事」の意義や役割についての理解を深める。</p> <p>(2)生活習慣病とのかかわりで、健康的な生活習慣としての「食事」のあり方を考えることができる。</p> <p>(3)食事の重要性を理解し、「食べること」の意義や食事の文化について調べることができる。</p>				
7		<p>3. 健康と運動・休養睡眠 (教 p.20~21)</p> <p>4. がんの発生と予防 (教 p.22~23)</p>	<p>・有酸素運動をはじめ、各運動の特性や役割、効果について具体的に理解することができる。</p> <p>・「休養・睡眠」の役割や、人間の日内リズムなどについて、正しく理解することができる。</p> <p>(1)「食事」とともに、基本的な生活習慣としての「運動・休養・睡眠」を重視し、その役割や実践方法についての理解を深める。</p> <p>(2)生活習慣病予防との関連で運動を捉え、運動の種類や方法を適切に選択することができる。また、肉体的な疲労のみでなく、精神状態の維持などのための「休養・睡眠」のあり方を考えることができる。</p> <p>(3)日常生活のなかに積極的に運動を取り入れようとすることができる。また、休養・睡眠の果たす役割の重要性を知るとともに、人間の日内リズムについて、積極的に学習できる。</p> <p>・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。</p>				

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
			<ul style="list-style-type: none"> ・がんの発生のメカニズム、発がん物質、また発がんの原因となる行動を知り、その予防と治療法についての理解を深める。 ・自分の周囲にある発がん物質を回避するための行動を、適切に選択することができる。 ・がんの予防について、生活習慣との関わりを相互に考えることができる。 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
2	9	第4節 喫煙, 飲酒, 薬物乱用と健康 1. 喫煙と健康 (教 p.26~27) 2. 飲酒と健康 (教 p.28~29) 薬物乱用とその防止 (教 p.32~33)	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙者本人のみでなく、周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 (1)喫煙者本人のみにとどまらない、喫煙による健康被害について、正しく理解することができる。また、未成年者の喫煙による健康への影響について正しく理解することができる。 (2)喫煙による健康への影響だけでなく、喫煙マナーのあり方についても考えることができる。 (3)喫煙による心身への害についての情報や喫煙問題への対策などを、教科書などから積極的に調べることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。 (1)飲酒による心身の健康や胎児への影響について、正しく理解することができる。また、未成年者の飲酒による健康への影響について正しく理解することができる。 (2)飲酒による身体器官への影響だけでなく、精神的な影響についても考えることができる。 (3)飲酒による心身への害についての情報を、教科書などから積極的に調べることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用は、心身の健康に対して深刻な影響を与えることを理解し、絶対に薬物に手を出さない強い意志を身につけることができるようにする。 (1)薬物乱用による心身の健康や社会的な影響について、正しく理解することができる。 (2)薬物乱用を防ぐためには、どのような意識をもつことが重要であるかを考えることができる。 (3)薬物乱用による心身への害や薬物ごとの特徴を、積極的に調べることができる。 				
	10	第5節 精神疾患の予防と回復 1. 脳と神経の働き (教 p.36~37)	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の行動や精神活動などの全てをコントロールしている、脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める。 (1)大脳の各部の働きによる行動、精神活動に関する正しい知識をもつことができる。 (2)自らの行動と、そのときの脳の働きについ 				

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		2. 欲求不満と適応 機制(教 p.38~39)	<p>て、関連づけて考えることができる。</p> <p>(3)大脳を中心とした身体の機能調節についての情報を積極的に収集し、学習することができる。</p> <p>・人間の欲求は様々なものがあるが、その全てが満たされるものではないため、欲求不満に対する耐性を身につけることの重要性についての理解を深める。</p> <p>(1)欲求の種類について正しい知識をもつことができる。また、適応機制について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)欲求不満を回避するために自らがとった行動を、適応機制と関連づけて考えることができる。</p> <p>(3)人間がもつ欲求や欲求への耐性について、自らの体験などと照らし合わせて、積極的に調べることができる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
11		3. 心の健康と精神 疾患(教 p.40~41)	<p>・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。</p> <p>(1)心の健康について正しい知識をもつことができる。また、精神疾患にはどのようなものがあるのかについて、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)心の不調について、自らの体験と関連づけて考えることができる。</p> <p>(3)おもな精神疾患やその症状についての情報を積極的に収集し、学習することができる。</p> <p>・精神疾患は誰しもが罹患しうること、若年で発症する疾患が多いこと、適切な処置により回復が可能であることについて理解を深める。</p>				
12		4. 精神疾患の予防 と回復のために(教 p.42~43)	<p>(1)心と体のつながりを知り、心の健康を保つための方法について正しい知識をもつことができる。また、精神疾患からの回復のために行われている支援などについて、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)精神疾患の予防と回復について、習得した知識をもとに心身の健康を保つための行動や対策について考えることができる。</p> <p>(3)心と体のつながりについて、自らの体験などに照らし合わせて考えるとともに、精神疾患からの回復についての情報を積極的に調べることができる。</p>				

週	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
3	1	<p>第2章 安全な社会生活</p> <p>第1節 安全な社会づくり</p> <p>1. 交通事故と安全の確保 (教 p.48～49)</p> <p>2. 安全・安心な社会づくり (教 p.50～51)</p>	<p>・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。</p> <p>(1)人・環境・車両の3つの要因によって発生する交通事故と、運転者の責任について正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)交通事故を防止するために必要な行動について知り、事故を回避するための、適切な行動を選択できる。</p> <p>(3)交通事故の原因や運転時の身体機能の変化について、積極的に調べることができる。</p> <p>・安全に暮らすための対策を知り、意識や行動についての理解を深める。</p> <p>(1)安全な社会づくりのために行われている対策や、安全確保のための必要な条件について正しく理解することができる。</p> <p>(2)安全・安心な社会づくりのために行われている対策について知り、安全に暮らすための行動を適切に選択することができる。</p> <p>(3)安全に暮らすための対策について積極的に調べることができる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
	2	<p>第2節 応急手当</p> <p>1. 適切な応急手当の手順 (教 p.52～53)</p> <p>2. 心肺蘇生法の実践 (教 p.54～55)</p>	<p>・応急手当の重要性を知り、傷病者の観察や応急手当の正しい手順についての理解を深める。</p> <p>(1)応急手当の第一段階である観察の手順について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)実際の手当が必要な傷病者に遭遇した場合に、必要な行動を適切に選択することができる。</p> <p>(3)傷病者に対する観察の手順について、実習などを通じて確実に身につけようとするところと、AEDの効果について積極的に調べることができる。</p> <p>・胸骨圧迫・気道の確保・人工呼吸の心肺蘇生と除細動を加えた心肺蘇生法について、正しい手法を理解し、身につけることができるようにする。</p> <p>(1)心肺蘇生法の手法について、正しい知識と技能を身につけることができる。</p> <p>(2)心肺蘇生法が必要な傷病者に対して、必要な行動を適切に選択することができる。</p> <p>(3)傷病者を救命するために行う胸骨圧迫・AEDの使用法・気道の確保・人工呼吸について、実習などを通じて確実に身につけようとするところとすることができる。</p>				
	3	<p>3. 日常的な応急手当 (教 p.56～57)</p>	<p>・日常おこるけがなどに対する手当の方法について知るとともに、熱中症への対策・予防についての理解を深める。</p> <p>(1)けがや熱中症に対する応急手当やその予防</p>				

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
			<p>法について、正しい知識を身につけることができる。</p> <p>(2)応急手当が必要な傷病者に対して、傷病に応じた手当の手法を適切に選択することができる。</p> <p>(3)けがの状態に応じた応急手当の手法について、自らが経験したことなどと照らし合わせて、積極的に学習できる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
	4						

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
2 年 1	4	第3章 生涯を通じる健康 第1節 生涯の各段階における健康 1. 思春期と健康 (教 p.64～65) 2. 思春期の体と健康 (教 p.66～67)	<p>・心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について、男女の意識の違いなども含めて理解を深める。</p> <p>(1)思春期に起こる心の変化や性意識の男女差について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)男女の性意識の違いについて知り、自らの行動に適切に反映することができる。</p> <p>(3)思春期の心の変化について知るとともに、男女の性意識の違いについても積極的に学習できる。</p> <p>・思春期における、男女それぞれの生殖器官の発達や、それにとまなう責任ある行動の重要性などについての理解を深める。</p> <p>(1)生殖器の成長によって、生殖機能が備わることについて、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)二次性徴におけるからだの成長について、自らのからだの変化と関連づけて考えることができる。</p> <p>(3)男女の生殖器官の発達について、それぞれ、積極的に調べることができる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
	5	3. 結婚生活と健康 (教 p.68～69)	<p>・結婚に関する制度を知るとともに、家族の健康を保つために、どのような対策が必要であるかについての理解を深める。</p> <p>(1)結婚に関する制度と、家庭が健康に果たす役割について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)結婚の意義や家庭と健康のかかわりについて、自らの家族や将来に当てはめて考えることができる。</p> <p>(3)健康の保持・増進のために、家庭が担う役割について、積極的に調べることができる。</p>				
	6	4. 新しい生命の誕生(教 p.70～71) 5. 家族計画と不妊治療(教 p.72～73)	<p>・受精のメカニズムを知り、妊娠から出産までの過程と、胎児と母体の変化についての理解を深める。</p> <p>(1)受精の仕組み、妊娠の経過、出産の過程について男女とも正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)女性は、自らが経験するかもしれないこととして、男性も課題を見つけて考えることができる。</p> <p>(3)受精から妊娠、出産までの過程のメカニズムについて、教科書などから積極的に調べることができる。</p> <p>・家族計画の意義や避妊法の特徴などを知り、人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響および、人工授精・体外受精などの問題点についても理解を深める。</p> <p>(1)人工妊娠中絶による影響や生殖補助医療技</p>				

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
		6. 加齢と健康 (教 p.76~77)	<p>術の発達による新たな問題について、正しく理解できる。</p> <p>(2)家族計画の重要性を認識し、自らの将来に当てはめて考えることができる。</p> <p>(3)家族計画を立てることの重要性を理解し、人工妊娠中絶による心身への影響などについても積極的に学習できる。</p> <p>・加齢に伴う心身の変化について知り、壮年期以降の健康課題を知り、高齢社会における取り組みについて理解を深める。</p> <p>(1)加齢とは何か、壮年期以降にはどのような健康課題がでてくるのかについて知り、高齢社会における取り組みについて、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)加齢による心身の変化について、自らの将来に当てはめて考えることができる。</p> <p>(3)加齢に伴う心身の変化や壮年期以降の健康課題、高齢社会における取り組みなどについて、積極的に調べることができる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
	7	第2節 労働と健康 1. 労働者の健康・安全と健康問題 (教 p.78~79)	<p>・労働と健康のかかわりについて理解を深める。また、職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようにする。</p> <p>(1)労働者を守るしくみを知り、労働環境の変化にともなう健康問題について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)職業選択の際の注意点について、自らの将来に当てはめて考えることができる。</p> <p>(3)労働と健康のかかわりや健康生活を送るための職場・家庭・地域の役割について、積極的に学習できる。</p>				
2	9	2. 労働災害・職業病とその予防 (教 p.80~81) 3. 労働者の健康づくりと「働き方改革」(教 p.82~83)	<p>・労働災害や職業病について知り、労災予防のための対策についての理解を深める。</p> <p>(1)労働災害の実態、その原因や防止のための対策について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)労働災害の原因を正しく理解し、将来労働災害に遭わないための適切な行動について考えることができる。</p> <p>(3)労働災害について考え、労災防止のための対策などについて、積極的に学習できる。</p> <p>・労働者の健康・安全をまもるために、わが国で行われている施策について知るとともに、自らがとるべき対策についても理解を深める。</p> <p>(1)労働者の健康・安全を守る法律や制度を知るとともに、労働者自身の心がけについても理解できる。</p> <p>(2)ヘルスプロモーションの実現のために企業が果たす役割について、身近な問題として考えることができる。</p>				

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
			(3)労働者の健康・安全をまもるために、どのような施策がとられているか積極的に調査し、学習できる。	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査
10		第4章 健康を支える環境づくり 第1節 環境・食品と健康 1. 環境汚染の広がりとその影響(教 p.88~89) 2. 大気汚染の健康への影響と対策(教 p.90~91)	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが取り巻く環境についての歴史を知り、生物多様性の保持の重要性や、近年の人間活動による汚染の急増、地球環境問題などについての理解を深める。 (1)地球環境の歴史と、生物多様性保持の重要性について正しい知識をもつことができる。また、環境汚染の現状などについて、正しい知識をもつことができる。 (2)地球環境問題の原因を知り、解決のために必要な行動について考えることができる。 (3)地球環境の変化の歴史と、現在の問題点について、積極的に課題を見つけることができる。 ・大気汚染の原因を知るとともに、大気汚染によって引き起こされる健康被害について考え、大気汚染防止のための対策についての理解を深める。 (1)大気汚染の定義と、健康に被害を及ぼす物質などに関する、正しい知識をもつことができる。 (2)大気汚染による健康被害を防止するための対策を、積極的に考えることができる。 (3)大気汚染による健康被害を防ぐためには、どのような対策が必要であるかを積極的に調べることができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・プリント、課題の内容・提出状況
11		3. 水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策(教 p.92~93) 4. 廃棄物の処理と健康(教 p.94~95)	<ul style="list-style-type: none"> ・水質汚濁や土壌汚染の現状・防止対策について知るとともに、公害などによる健康被害についても理解を深める。 (1)自然環境の水を通した循環について知り、水や土壌の汚染が発生の経過や、防止のために行われている対策などについて、正しい知識をもつことができる。 (2)水質汚濁や土壌汚染を防止するために、私たちが行うことができる身近な対策を考え、自らの行動に反映することができる。 (3)水質汚濁や土壌汚染による健康被害について、その原因と対策を積極的に調べることができる。 ・産業廃棄物を処理する過程での不法投棄不法な焼却などの問題点を知り、産業廃棄物による環境汚染を防ぐための施策についての理解を深める。 (1)有害な化学物質による健康被害の危険性や、それらの管理方法について正しい知識をもつことができる。 (2)産業廃棄物問題を自らの健康にも直接かわる問題として捉え、考えることができる。 (3)産業廃棄物処理問題の構造と、その解決策 				

年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
	12	<p>5. 環境衛生活動 (教 p.96～97)</p> <p>6. 食品の安全性の確保 (教 p.100～101)</p>	<p>について、積極的に課題を見つけ、学習することができる。</p> <p>・わが国における上下水道の整備状況やゴミ処理方法について理解を深めるとともに、ゴミを少なくするための方策についての理解を深める。</p> <p>(1)ゴミ処理の4つの方法や上下水道の仕組みなどについて、正しい知識をもつことができる。また、ゴミの減量化に向けた3R運動などの取り組みについて、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)上下水道の設備やゴミの分別など、身近な問題として捉え、考えることができる。</p> <p>(3)環境衛生向上のための上下水道の整備方法やゴミ処理方法について、積極的に課題を見つけ、学習できる。</p> <p>・食品による健康被害の種類を知り、このような被害を防止するために行われている施策についての理解を深める。</p> <p>(1)食品による健康被害と、その予防のために行われている対策について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)自らの食生活において、健康被害に遭わないために必要な行動を、適切に選択することができる。</p> <p>(3)食品によって起こる健康被害や、防止のための対策などについて、積極的に調べることができる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
3	1	<p>第2節 保健・医療制度と機関</p> <p>1. 保健・医療制度 (教 p.102～103)</p> <p>2. 地域の保健機関・医療機関の活用(教 p.104～105)</p>	<p>・わが国で行われている、保健行政について具体的な施策を知るとともに、医療制度の仕組みやサービスについても理解を深める。</p> <p>(1)わが国の保健行政・医療制度などについての、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)わが国の保健・医療に関する制度について、自らの健康の保持・増進に直接かかわるものとして捉え、考えることができる。</p> <p>(3)わが国の保健行政や医療制度などについて、その具体的な施策などを、積極的に調べることができる。</p> <p>・私たちの身の回りにある保健機関・医療機関について、それぞれの機関がもつ役割について理解を深め、活用できるようにする。</p> <p>(1)保健・医療機関がそれぞれもっている役割やサービスについて、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)保健・医療機関の利用方法について理解し、自らの生活のなかで適切に利用することができる。</p> <p>(3)身近にある保健・医療機関の役割や場所、医療機関の利用法などを、積極的に調べることができる。</p>				

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	a	b	c	評価方法
	2	3. 医薬品と健康 (教 p.108~109) 4. さまざまな保健活動や社会的対策 (教 p.110~111)	<p>・医薬品の有効性と危険性の両面について知り、医薬品は正しく使用する必要があることについての理解を深める。</p> <p>(1)医薬品の効果と副作用に関して、安全に使用するための正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)医薬品を正しく使用するための情報を日常生活に当てはめて、適切に選択することができる。</p> <p>(3)医薬品の効果と危険性の両面について理解し、日常生活における医薬品の危険性について積極的に考えることができる。</p> <p>・わが国や世界で行われている、健康の保持・増進をはかるための保健活動や対策について知り、民間機関、国際機関の活動についての理解を深める。</p> <p>(1)わが国で行われている保健活動について、正しい知識をもつことができる。また、国際的に行われている保健活動について、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)自らの健康の保持・増進をはかるために、ヘルスプロモーションの考えに沿って積極的に調べ、さまざまな保健対策を利用することができる。</p> <p>(3)わが国や世界で行われている保健活動や対策について、積極的に調べることができる。</p>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・定期考査 ・プリント、課題の内容・提出状況
	3	5. 健康に関する環境づくりと社会参加 (教 p.112~113)	<p>・健康の増進のために、積極的な健康づくりである「ヘルスプロモーション」が重要になってきていることを知り、そのためのわが国や世界各国での取り組みについての理解を深める。</p> <p>(1)健康の保持増進のための環境について、正しい知識をもつことができる。また、ヘルスプロモーションを進めるための取り組みについて、正しい知識をもつことができる。</p> <p>(2)健康を保持・増進するのに必要な取り組みについて調べる適切に活用することができる。</p> <p>(3)健康増進の取り組みについて、自らの生活に当てはめて考え、積極的に健康増進を図ろうとすることができる。</p>				